
デッサン 第3話「車」(2)

小箱町まりあ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

デッサン 第3話「車」(2)

【Nコード】

N3523Q

【作者名】

小箱町まりあ

【あらすじ】

彼は車で私を連れ去った。

彼の家・・・。(前書き)

彼の家を忘れていた。

彼の家……。

絵が好きな陶子に刈谷は自分の描いた絵を次々に見せていき、陶子の緊張も次第に解かれていくのでした。そして、陶子がデッサン画のスケッチ・ブックを見てみると、刈谷の腕が陶子の身体を捉えたのでした。ふるえる陶子に刈谷は優しくキスをするのでした。それでも、怖がる陶子に刈谷は自分の気持ちを伝え、陶子をもう離さないのでした。この時の陶子は刈谷が知っている中で1番美しい姿・顔なのでした。

そして、全てが終わると陶子は聖哉の携帯に電話して、帰る事を伝えるのでした。陶子がアパートに帰宅すると聖哉は

「陶子ちゃん。」

と言っでくずるのでした。そして、聖哉の掛かり付けの病院に彼女を連れていき、陶子を失いたくない聖哉は再び薬を飲み、その記憶を奪うのでした。

そして、陶子はクリニックに行くと言った記憶の無い顔で、そこに居る人達に微笑みかけるのでした。

彼の家・・・。(後書き)

帰る場所はアパート。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3523q/>

デッサン 第3話「車」（2）

2011年1月28日09時26分発行